

あゆみ

J C H O
二本松病院

二本松市成田町1-553

TEL.0243-23-1231

FAX.0243-23-5086

<http://nihonmatsu.jcho.go.jp>

発行者：あゆみ編集委員会

二本松病院での研修生活

私は中国の内モンゴルの出身で、学生時代からへき地医療に興味がありました。6月から2ヶ月間二本松病院にて地域研修をしています。

二本松に来る電車の車窓から遠い小山や木、近い田んぼに作物や草、人の気配が少ない穏やかな田園風景を見て、大震災の跡はまったくなかったように感じました。

二本松病院に着いた後に、160床ベッドの病院に内科では副院長の柳沼先生を含め内科常勤の先生は2人しかおらず、なんと柳沼先生が33名の患者さんを受け持っているにもかかわらず、週4回の外来、救急当番、副院長の病院管理業務などなど大変忙しいことに驚きました。私は、最初30数名入院患者さんの病態を把握するだけで精一杯でした。また、入院患者の出入りも激しく、病棟業務のみで大変忙しく第1週目を過ごしました。

二本松病院は地域の中核病院として様々な入院患者がおり、大学病院とそれほどの差はないのですが、検査と治療の違いはあります。たとえば、咳・痰・発熱の患者さんに対して、大学病院なら、血液ガス・胸部XP・CT・血液培養・痰培養を提出し、1時間以内にガイドライン通り抗菌剤の投与を開始します。二本松病院では血液培養・痰培養は積極的に行っておりません。血液培養をしないのは菌血症の発生率が低いことと血液培養の感度も低いと考えられます。また、痰培養で陽性となった菌は起炎菌と限らないので、痰培養も行わないと考えられます。もちろんコスト・ベネフィットも考えられているのです。抗菌剤の投与も高齢者には大学病院の半量以下で投与しているのに、不思議なのは患者さんが良くなっている結果です。よく考えたらガイドラインに基づくエビデンスは、ほぼ大学病院で大規模臨床試験をメインに行っており、地域のデータを含めているのか偏りがあるのではないかと

感じるようになります。ここで最小限の検査・治療で患者さんの病気を治すことは素晴らしいと思います。高齢者の方は認知症も多いため、内服薬が5種類以上ある方がたくさんいらっしゃいます。柳沼先生には少ない薬剤と、少ない検査で患者さん自身の力を引き出すことを重視する考え方を教えていただきました。一方、患者さんの病態によって、CTカテーテル挿入などを行ったりすることもあり、院長の六角先生にはCTカテーテルの手技を自ら教えていただきながら一緒にやらせていただきました。二本松病院は研修医の勉強により環境であり、第2～3週目には非常に勉強になった日々を送りました。

私は、へき地の診療所で一人で診療できる医師を目指しており、地域医療を行う医師は専科に限らず広く診療することが必要だと思います。これは、この研修で強く感じたことでもあります。院長先生と副院長先生は幅広い疾患に対応しながらも得意分野を持っており、良い診療ができていますと感じました。二本松病院の研修で幅広い疾患を経験し、手技も比較的多く経験することができたのは、自分にとって大きな収穫となりました。この3週間、地域で働くことのやりがい、楽しさ、大変さを感じました。医師、看護師、コメディカルが一丸となり良い医療を行おうとする姿勢が印象的でした。二本松病院での経験を生かし今後目標とする医師像に向けて将来専門医を取得しながら幅広くトレーニングを行い、いつの日か成長してまたここに戻って仕事できたらいいなと思っています。

周囲の方々に恵まれ、楽しく充実した研修生活を送ることができ、2ヶ月という研修期間がとても短く感じます。残りの期間も頑張りますので、よろしく願いいたします。

研修医 キョウ セン

「インスリンボール体験教室」開催!



5月31日(水)、看護師を対象に学習会を開きました。

この「インスリンボール」とはなんでしょう?

これは、インスリン注射をしている方が**いつも同じ場所に注射していると、皮膚が硬くボールのよう**になってしまい、インスリンの吸収が悪くなってしまふことを意味します。

せっかく注射していても、吸収がわるく、血糖が高くなってしまつてはもったいないですね。

そのため、看護師が患者さんの「インスリンボール」を発見し、注射部位の指導能力を高めるために学習会を行いました。

学習会は大盛況!



ドキドキするなあ...



るっ!

また、インスリン注射をする方の気持ちを知るために、看護師のインスリン注射模擬体験を行いました。いつも患者さんにしている注射ですが、いざ自分に行ってみると「怖い!」「思ったより痛くない」「インスリン注射をしている方は大変なのですね」など様々な学習ができたようでした。



最新の穿刺針で自分の血糖を測ってみよう!

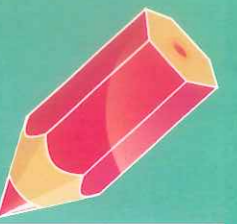
その他、「血糖を測ってみようコーナー」や新しいインスリン「ライゾデクフレックスタッチの説明会コーナー」で楽しく学びました。



スイーツを食べるとどのくらい血糖が上がるかな? 北海道のキャラメルを準備しました♪



医療安全研修を終えて



第一回医療安全研修として、県立医科大学会津医療センターの齋藤拓朗先生を講師に迎え講演して頂きました。齋藤先生は堅いイメージの医療安全を、とても明るく楽しい事として紹介して下さいました。起きてしまったことを個人の問題(責任)として捉えずに、なぜ起きてしまったのか、防ぐにはどうすればいいかを、みんなの問題(責任)として検討する事。それを実際の活動を通した具体的な例を挙げて説明され、私たちの心にすんなりと入ってくる内容でした。また、患者さんに名前を名乗ってもらうため、会津弁の「お名前 言ってくなんしょ」と書かれたほのぼのとしたポスターはとても印象的でした。

直ぐにでも実践できることもあり、これからの課題が盛りだくさんだなぁと思うと共に、とても充実した時間を過ごせ

たと感じる講演でした。

初めての勤務時間内研修という事で不安がりましたが、当日100名以上が参加できたことを嬉しく思います。ご協力ありがとうございました。なお、参加できなかった職員には、後日ビデオ研修を行い全職員で医療安全に参加してもらうようにしました。

今年の4月から医療安全管理室に専従として配属され、まだまだ課題も多く、模索中です。これは伝えたい・これは言っておきたい等ありましたら、いつでも伺います。内線1799で呼んでください。場所は訪問看護ステーションの隣にあります。二本松病院も齋藤先生を見習って、「明るく楽しい医療安全」をめざしたいと思います。

医療安全管理室 西塚 吹子

お名前 言ってくなんしょ



福島県立医科大学会津医療センター
外科学講座 教授
齋藤 拓朗 先生
(さいとう たくろう)



訪問看護実習生を受け入れました

訪問看護ステーションに福島県立医科大学看護学部
4年生6名の看護学生が実習に来ました。

訪問看護に同行しながら、地域で生活する療養者様や家族様が必要としている支援、看護の役割について学びました。様々な療養生活の場を訪問させていただいたことで、個々人それぞれに大切にしている価値観があり、様々な家族形態、生活様式があることを実感できたようです。

来年の春には看護師としてスタートする学生にとって、とても貴重な経験になったと思います。訪問看護で学んだことを心に留めて、療養者様や家族様の想いに寄り添うことのできる看護師になって欲しいとエールを送ります。

このような機会を与えてくれた利用者の皆様、ありがとうございました。



◀カンファレンス中の様子

訪問看護ステーション看護師長
五十嵐 礼子

編集
後記

この時期気になるのが毎日のお天気。夏日とは日最高気温が25℃以上の日、真夏日とは日最高気温が30℃以上の日、猛暑日とは日最高気温が35℃以上の日となっているようです。体調管理に注意し水分補給を忘れずにとることはもちろん、もうひとつ注意しなくてはいけないのが急な雷雨、干したままにしていた洗濯物、布団などお忘れなく…

Y・M記